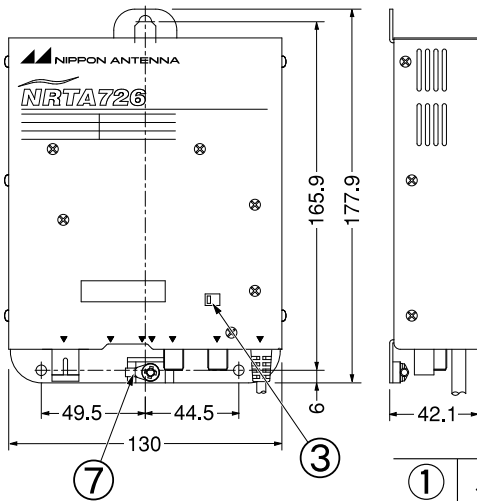


取扱説明書・施工説明書

- ご使用前にこの取扱説明書と施工説明書をよくお読みください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。

取扱説明書

各部の名称および機能



単位：mm
質量：0.8kg

①	パイロットランプ	電源を入れるとLED（緑）が点灯します。
②	アラームランプ	光入力レベルが-15dBm以下になるとLED（赤）が点灯します。
③	出力レベル調整ATT	出力レベルを10dB低くすることができます。
④	光入力端子	光入力レベルを-8~-2dBmの範囲で入力してください。
⑤	出力端子	RF信号を出力します。
⑥	出力モニター端子	出力レベルより20dB低い値を出力します。
⑦	アース端子	アース線は、φ1.6~2.0mmの被覆銅線で完全に接地してください。接地が不十分ですと避雷回路が働かず、機器や施設の故障などの原因となることがあります。
⑧	電源コード	AC100V

目次

表紙	説明の始まるページ
〔取扱説明書〕	
各部の名称および機能	1
取扱上のご注意	1
メンテナンス	1
安全上のご注意	2
廃棄上のご注意	2
特長	2
性能規格	3
〔施工説明書〕	
設置場所・条件	4
光コネクタの接続	4
同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法	5
操作方法	5
収納箱への設置	6
取付方法	6

取扱上のご注意







取付工事は、専門の施工業者にご依頼ください。

メンテナンス

いつでも美しいテレビ映像をお楽しみいただくために、年に1回は専門業者に保守・点検をご依頼ください。

安全上のご注意

絵表示について この「安全上のご注意」、「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになるかたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

		絵表示の例	
 危険	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。		△記号は注意(注意・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は警告または注意)が描かれています。
 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。		○記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。		●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください。)が描かれています。

危険

- 光ファイバーには不可視レーザー光が放射されています。目に障害を与える危険性がありますので、絶対に光ファイバーのビームをのぞき込まないでください。



警告

- ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に置かないで施工説明書に従って施工してください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



- 表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



- 本器に水が入ったり、本器の内部がぬれたりしないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。



- 万一、本器を落としたり、破損した場合には、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 万一、異物が本器の内部に入った場合は、まず、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。(特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。)



- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり(熱器具に近づけたり)引っぱったりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのままご使用になると火災・感電の原因となります。



- 本器のカバー(トレイは除く)をはずしたり、本器を改造したりしないでください。また、本器の内部には触れないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。



分解禁止

- 万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



注意

- 湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所(調理台や加湿器のそば)に置かないでください。また、振動のある場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



- 本器の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。また、本器が変形し、火災・感電の原因となることがあります。



- 直射日光の当たる所、温室やサンルームなどの温度や湿度の高いところに置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



- 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



- 電源分離で使用するときは、本器電源部以外の電源は使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。



廃棄上のご注意

本器のすべて、または部品を廃棄する場合には、自治体の定めた条例にしたがって処理してください。

特長

1. 本器は高層ビル、マンションなどの光ファイバー映像配信システムにご使用いただける光受信端末です。
2. 伝送帯域は、VHF・UHF(CATV)帯70~770MHz、BS・CS-IF帯950~2602MHzと広帯域での伝送が可能です。
3. 従来の同軸伝送では困難であったBS・CS-IF帯の長距離、多分配伝送が、光伝送により安定して行なえるようになります。
4. AGC機能により、外部調整の必要がなく、安定した出力レベルが確保できます。また、10dBの出力アッテネーターを内蔵しています。
5. 出力モニター端子が付いていますので、保守、管理が容易におこなえます。

性能規格

項 目		性 能		備 考
		VHF・UHF 70~770MHz	BS・CS-IF 950~2602MHz	
光 入 力 特 性	光入力レベル (dBm)	-2~-8		
	光波長 (nm)	1550±10		
	光コネクタ	SC-SPC		SC-UPC互換
	光コネクタ反射減衰量 (dB)	40以上		
電 気 特 性	伝送波数 (波)	アナログ 11 デジタル 80 ※2	36	
	出力レベル (dBμV)	95±4	85±4	※1
	帯域内周波数特性 (dBp-p)	4以内	6以内	
	出力インピーダンス (Ω)	75		F型
	出力VSWR	2.5以下		
	出力レベル調整ATT (dB)	10±1.5	10±2	スイッチ切換
	出力モニター (dB)	-20±2	-20±3	
	CN比 (dB)	46以上 ※2	26以上	※1
	CSO (dB)	-58以下 ※2	—	※1
	CTB (dB)	-60以下 ※2	—	※1
	IM2 (dB)	—	-31以下	※1
	IM3 (dB)	—	-63以下	※1
	ハム変調 (dB)	-60以下		※1
	AGC	lpd方式		
	ALM LED	光入力不足時点灯		※3
	不要放射 (dBμV/m)	34以下		3m法による
	電源電圧 (V)	AC100±10 (50/60Hz)		
	消費電力 (W)	7以下		
	耐雷性 (kV)	±15 (1.2/50μs)		
	使用温度範囲 (°C)	-10~+40		本体周囲温度
外形寸法 (mm)	130 (W)×178 (H)×42 (D)		突起物含まず	
質量 (kg)	約0.8			

※1 弊社光送信機(HE05726)との対向性能

●CN比帯域換算値

70~770MHz : 4MHz

950~2150MHz : 28.9MHz

●使用光ファイバー

1.31μmシングルモード 光ファイバー

●弊社測定系による

※2 デジタル-10dB運用

※3 -15dBm±2dB以下時、赤点灯

施工説明書

設置場所・条件

- 水中や雨水のかかる場所、高温（40℃以上）の場所、有害ガスなどの発生する場所はさけてください。
- 光受信端末は発熱しますので、熱のこもる場所はさけ、通風のある場所に設置してください。
- 電気配線、配線工作物の近くや、強い電磁波を受ける場所をさけてください。
- 放熱のため、同軸ケーブルの引き回しにより換気孔を塞がないよう、ゆとりある収納箱に設置してください。
- メンテナンスに容易な場所を選定してください。

光コネクターの接続

■光ファイバー、光コネクタ取扱い上の注意

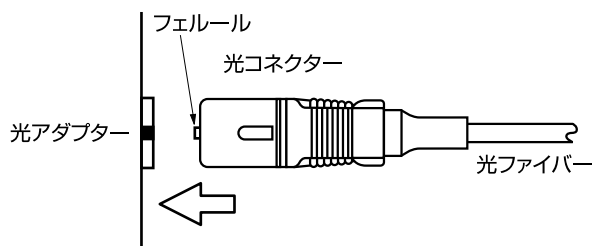
光ファイバー、光コネクタを取扱う場合は、専門の施工業者がおこない、以下に記載する内容を十分ご理解の上、ご使用ください。断線・損傷・特性劣化の原因となります。

光ファイバー

- ①光ファイバーのビームは絶対にのぞき込まないでください。
- ②取扱うファイバーの許容曲げ半径をご確認ください。
- ③ファイバーによじりなどのストレスを極力かけないようにしてください。
- ④ファイバーを強く引っ張らないでください。

光コネクタ

- ①光コネクタは接続毎に、必ずフェルール端面を光コネクタ専用クリーナー、またはキムワイブなどにアルコールを浸して、きれいにクリーニングしてから接続してください。
- ②光コネクタはホコリや汚れに非常に弱いため、汚れた手で取扱わないでください。特にフェルール部分には絶対に触らないでください。
- ③光コネクタの保護キャップは、接続時以外ははずさないようにしてください。汚れの原因となります。
- ④指定された光コネクタの種類、研磨方法以外の光コネクタは使用しないでください。
- ⑤光コネクタを機器に接続する際は、プラグの位置決め用の爪を、光アダプターの溝に合せてまっすぐに挿入してください。絶対に斜めには挿入しないでください。光コネクタ、光アダプターの破損の原因となります。
- ⑥光アダプター内にマッチングオイルなどのグリスがはいらないようにしてください。本機器にはマッチングオイルなどの使用を特に必要としません。
- ⑦光コネクタを高所から落下させたり、硬い物にぶついたりしないでください。



危険

光ファイバーには不可視レーザー光が放射されています。目に障害を与える危険性がありますので、絶対に光ファイバーのビームをのぞき込まないでください。



注意

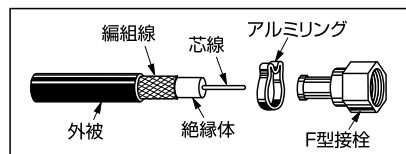
光ファイバーが破損した時は、破片などに手を触れないでください。破片でけがをする恐れがあります。

同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法 (別売品)

◆用意するもの

カッターまたはナイフ、ハサミまたはニッパー、ペンチ。

■各部の名称



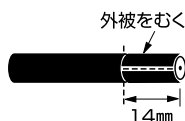
●アルミ箔付同軸ケーブル (FB型) の場合、アルミ箔は絶縁体と同様に加工してください。

ポイント

- 絶縁体をカットするときは芯線をキズつけないように注意し、芯線と編組線が接触していないかを確認してください。
- 芯線に付着物がないか確認し、付着物がある場合は、きれいにしてください。
- 芯線の外径が1.5mm以下の同軸ケーブルをご使用ください。外径が1.5mmより太い場合は、ピン付接栓をご使用ください。(※同軸ケーブルを取換える場合は、以前使用していた同軸ケーブルと芯線の外径が同じ同軸ケーブルをご使用ください。)

●F型接栓締付トルク 2.0N・m (約20kgf・cm)

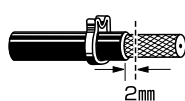
① カッター、ナイフなどで点線の部分をカットします。(深さ1mm程度)



② 外被をむき、アルミリングを通しておきます。



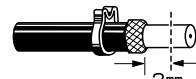
③ 外被から2mm程度はなして編組線をていねいに切り落としてください。



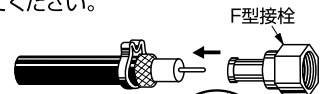
④ 編組線をめくりあげます。



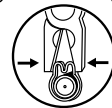
⑤ 編組線から3mmはなして絶縁体を切り、抜きとります。



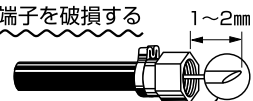
⑥ F型接栓を絶縁体 (アルミ箔) と編組線の間には挿入し、アルミリングをペンチなどでつまんでしっかりつぶしてください。



⑦ 芯線の先端は1~2mm出し、斜めにカットしてください。



芯線が長いと接続端子を破損する場合があります。



芯線は斜めにカットすると挿入しやすい

⚠注意 加工の際、切りくずの扱いや工具の使用には十分注意してください。思わぬケガの原因となります。

操作方法

- ⚠注意**
- 光送信機の光出力端子、光送信機に接続した光コネクタからは、不可視レーザー光が放射しています。目を傷つける場合がありますので絶対に覗き込まないでください。
 - 光コネクタを接続する際は、コネクタ端面を専用クリーナー、またはアルコールで良く清掃してから接続してください。
 - 使用する光コネクタの形状はSC型、研磨はSPC (UPC) 研磨のものを使用してください。その他のものを使用の場合、機器を破損する場合があります。

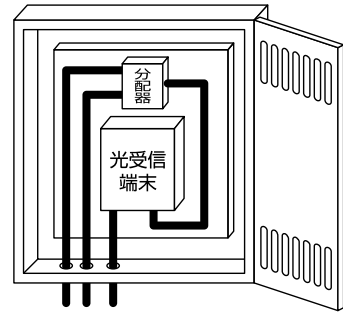
①光伝送路の光コネクタ (SC-SPC) を光パワーメーターに接続して、本器の規定レベル内 (-2~-8dBm) であることを確認後、本器の光入力端子に接続してください。

⚠注意 本器の規定光入力レベル範囲をはずれたレベルや規定波長 (1550nm) 以外を入力しないでください。機器の破損または性能の低下となる場合があります。

②本器は、AGC (Auto Gain Control) 機能が備わっているため、出力レベルの調整は必要ありません。なお本器は10dBの出力レベル調整アッテネーターが備わっています。出荷時は0dB (スイッチ左側) に設定されています。

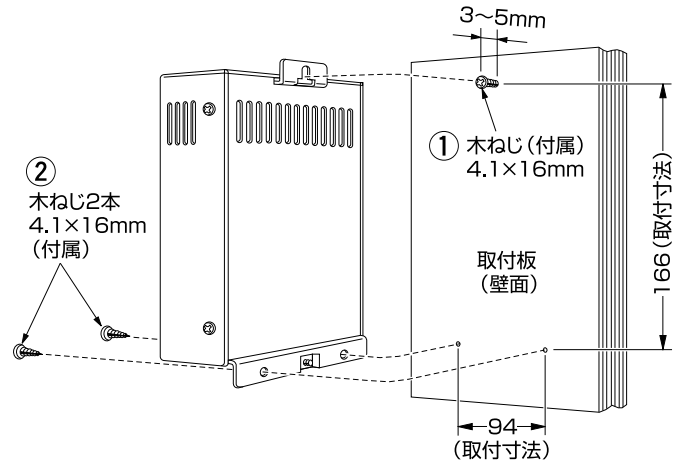
収納箱への設置

- 収納箱に入れて使用する場合は、上下に防虫網付きの換気孔などのある収納箱を使用し、温度管理に十分注意してください。また、光受信端末は収納箱の最上部を避け、換気孔より下側の位置に設置してください。



取付方法

- ① 付属の木ねじで本体上部を固定してください。
- ② 上部を止めた後、本体下部を付属の木ねじ2本を指定の締付トルクで固定してください。



● 締付トルク

1.0~1.5N・m (10~15kgf・cm)

⚠ 注意 本器は図のように必ず縦方向に取付けてください。指定外の取付けでは十分な放熱がおこなわれず、機器の故障の原因となります。

情報通信が仕事です。

日本アンテナ株式会社

本社 / 〒116-8561 東京都荒川区西尾久7-49-8 ☎ (03) 3893-5221 (大代)

※ 製品改良のため、仕様、外観の一部を予告なく変更することがあります。

D842042702 平成19年9月